

# Hoppoken

北方圏

2022  
Vol. 191



特集

## 「再生エネルギー 覇権争う世界、そして日本」

### 「アイスランドにおける男女平等の取り組みに学ぶ」

### 「北海道在住外国人緊急支援プロジェクト」



公益社団法人  
北海道国際交流・協力総合センター  
HIECC/ハイエック

# 北海道イスラミックソサエティ モハツマド・トウフィック・アラム会長に聞く

北海道を生活の場を選ぶ在住外国人が増え、誰もが暮らしやすい

多文化共生社会を創っていくことが重要な課題となっている。特に日本とは異なる信仰や文化を大切にする人たちに対しては、おもてなしの心と、きめ細かな配慮が必要だろう。北海道で暮らすイスラム教徒のコミュニティ、北海道イスラミックソサエティのモハツマド・トウフィック・アラム会長に、日本での生活について聞いた。

——北海道イスラミックソサエティの皆さんは、どこの国からいらしているのでしょうか？  
今は何人ぐらいの方がいらっ  
しゃいますか？

北海道には今、札幌と小樽に宗教法人として認可されたモスクがあり、江別市にも礼拝所があります。それぞれが日常の祈りの場であるとともに、コミュニティの

中心となっています。

札幌の信者は90%が留学生や研究者などの北海道大学関係者で、私自身も北大歯学研究院の学術研究員です。あとの10%は、ビジネスで来日した人です。国籍はバンラダシユ、インドネシア、マレーシア、エジプト、パキスタンの人が多いですね。サウジアラビアや、モロッコ、チュニジアなどの人も、ごく一部います。ガーナ、ジンバ

ブエといったアフリカの人もいますよ。日本人の信者の人も20人以上います。

小樽は全員、江別もほとんどの人がパキスタン人です。中古車や自動車の部品をドバイやロシア、ウズベキスタンなどに輸出する仕事をしています。

人数は札幌、小樽、江別を合わせ、それぞれの家族を加えると、今は400〜500人ぐらいです。大学がITなどの分野で

積極的に海外から留学生や研究者を受け入れていますし、国際協力機構(JICA)も国際交流のために活発に活動しているのです、人数はどんどん増えてきています。

日本はイスラム教徒に対して友好的で、安心して暮らせる国です。街中で無視された

り、人を傷付けるような言葉を投げつけられたりして、怖い思いをすることがありません。残念ながら、どこの国もそうだといいわけではありません。

——北海道で生活していて、不便なことはないでしょうか。イスラム教徒の方が安心して食べられるハラルフード(※注1)は、手に入りますか？

札幌でハラルフードを買い場所は、ここ数年で増えてきています。ハラルフード専門店やインドネシア料理店だけでなく、神戸物産(兵庫県加古川市)が展開するフランチャイズチェーン「業務スーパー」でも販売しています。一部の大手スーパーの中には、ハラルコーナーを設けている店舗もあります。



モハツマド・トウフィック・アラム会長

※注1：ハラルフードとは

イスラム教で不浄なもの、豚の肉や、豚由来の原料(ラード、ポークエキスなど)やアルコールが基本。調理器具や冷蔵庫など、豚肉と牛や羊の肉を分けなければならない。イスラム教の方法で加工された肉を食べる。

礼拝場所(※2)を設けた施設も増えてきています。イスラム教では1日に5回礼拝を行います。駅や空港、百貨店、レジャー施設といったさまざまな場所で、礼拝専用のスペースが設けられています。

※注2：礼拝場所の条件

礼拝は、午前5時～午後11時、就寝前、メカ前に静か

前、後、日、夜、明け、正、後、回、向、礼、場、清、潔、さ、る、に、向、き、て、行、う、口、洗、え、り、中、に、集、中、し、な、い、と、す、べ、し、い、で、な、さ、い、ま、す。

私は大学で研究生生活を送っていますが、日本人の教授や同僚は私たちの文化を理解し、尊重してくれています。教授は私に来る前から「イスラム教徒の人には、礼拝のスペースが必要だね」と気遣ってくださいました。今も仕事中に「そろそろ礼拝の時間でしょう。行つてらっしゃい」と声をかけてくれます。他の人たちも、会議やミーティングの最中に礼拝の時刻が来ると、休憩の時間を取って

れるのですよ。日本人の中にイスラム教徒がいるのが、当たり前のことになってきているんですね。

—ご家族で来日されている方の場合、お子さんたちはインターナショナルスクールなどに通っているのでしょうか。それとも日本の学校に通学していますか？

私自身の子供たちを含め、99%は地元の公立学校に通い、日本語で授業を受けています。学校側でハラールフードなど、イスラム教の文化に配慮してくださっています。家族の転勤で日本に来て数年で帰国する子もいるので、イスラムのインターナショナルスクールが必要です。東京には5、6校以上あり、100人以上の生徒がいますが、北海道には1校もありませんでした。

そこで2021年に全日制の小学校として、東京にあるインターナショナル・イスラミー・スクール大塚と連携し、札幌イスラミック・インターナショナルスクールを創立しました。博士号を持つ人

など信者が教員を務め、今は児童10人が通っています。英語やアラビア語、理科などの教科だけでなく、日本語や漢字も勉強していますよ。そして、今年4月からは幼稚園を始めます。将来はキャンパ

スを広げて、中学校も設けたいと考えています。

—素晴らしい計画ですね。他にも計画していることはありますか？

北海道には食品のハラール認証を

行う団体がなく、海外や東京などの組織に申請をする、とても経費がかかります。そこで、私たちの協会で独自のハラール認証制度を設ける予定です。

札幌で安価に認証を受けられる制度を維持できれば、食に関わる北海道の人にとってはビジネスチャンスになりますし、イスラム教徒は安心して北海道旅行を楽しめます。コロナが収束したら、飲食店のオーナーを対象に



コロナ前に定期的に行われていたイマーム(指導者)によるイスラム理解講座。東区民センターでのハラールに関するセミナーの様子

したハラルフードに関する出張講座や、地元のレストランとイスラム教徒のビジネスマンの交流などもアレンジしていただけると思います。

——地域との交流で、好循環が生まれるといいですね。

日本では、海外からイスラム過激派組織によるテロ事件などのニュースが届くと、イスラム教は戦闘的で怖いという印象を抱く人もいるかもしれません。イスラム

教は本来、平和を願う宗教であることを、日本の皆さんに伝えたいと思っています。

私たちの信仰とコミュニティを支える場として、礼拝所と多目的ホールや学校、ミュージアムなどを備えた施設、イスラミック・センターを札幌に建設する計画があります。土地の購入費用をクラウドファンディングで募る「札幌マスジドプロジェクト」には、588人の支援者から46万ドルを上

回る寄付が寄せられました。

完成したら、ここをイスラム文化発信の拠点として、交流プログラムやセミナーも開催していきたいと考えています。コロナ禍のためにイベントを控えるようになる前は、ハラルフードナイトや、カルチャーナイトといったアクティビティーを区民センターで開催し、たくさんの方が来てくれました。

私たちはラマダン(※注3)の時期、日中は断食をしますが、日の出前や日没後は親しい人たちと一緒に食事をします。札幌でもさまざまな国の人が毎日集まり、各国の料理を作って分かち合います。近所の日本人の方たちも来てくれて、楽しい時間を過ごしています。

——北海道の暮らしを楽しんでくださって何よりです。

北海道は豊かな自然に恵まれ、インドネシアやマレーシア、シンガポールといった南国のイスラム教徒に人気の観光地です。北海道が安全で友好的な自治体であり、礼拝ができるスペースも、安心して食事ができる場所もあることを知ったら、きつともっと多くの旅行者が訪れるでしょう。コロナが収束したら、ぜひ雪を楽しみに来てほしいですね。

日本の皆さんは、災害やコロナ禍で自分たちも大変な時、私たちに食料を分けたり募金をしたりして助けてくれました。これからも皆さんと共に生き、知識を分かち合い、交流を深め、地域のハーモニーのために尽くします。



1993年に開設された札幌マスジド (マスジドはアラビア語でモスクの意味)

※注3：ラマダンとは

の目を9番の月、11日に断食を終る。断食の間、心を清め、心身を鍛錬し、神に近づく。断食の期間、心を清め、心身を鍛錬し、神に近づく。

Mohammad Towfik Aliam  
 ハングラテシユ・ダツカ出身。同国で口腔外科医を務め、2007年に文部科学省の国費留学生として来日。北海道大学で歯学博士号を取得。現在は同大学大学院歯学研究所、口腔病態学分野、血管生物分子病理学教室に学術研究員として勤務。妻、娘2人と共に札幌に在住。趣味は旅行。